

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43100101	事業名称	クリーン推進員事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	048-228-5370	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 7 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	クリーン推進員	市民		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	地域住民と行政が一体となって活動することにより、ごみの排出抑制・減量化・資源化を推進するとともに環境美化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール違反、不法投棄に関する随時の報告、要望、相談への対応 ・年4回の報告書に対する対応 ・活動に必要な研修会の実施 		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーン推進員の委嘱(感謝状贈呈式及び委嘱書交付式の開催、講演会の実施) ・市内10ブロックに分けての研修会の実施 ・クリーン推進員(新任)の研修を兼ねた施設見学会の実施 ・報告、相談への対応(随時) 	項目	実績	単位
		感謝状贈呈式及び委嘱書交付式参加者数	440	人
		ブロック別研修会参加者数	385	人
事業の成果【定性的評価】	研修会の開催により、クリーン推進員の理解や意識が深まった。また、行政と市民をつなぐ地域のリーダーとして、啓発活動をした結果、ごみの排出抑制・減量化・資源化が推進され、あわせて環境美化が図れた。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	講演会(研修会)			指標・目標値の説明(算定式)	日頃の活動の意義と資質の向上を図るため、講演会(研修会)を実施する。				
	単位	回	指標の種別	活動						
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度
	実績値・達成状況	1	達成	1	達成	1	達成			
指標②	名称	ブロック別研修会			指標・目標値の説明(算定式)	市内を10のブロックに分け、活動に密接な研修会を行う。また、地域の問題点や疑問点に関する情報の共有や意見交換を行う。				
	単位	回	指標の種別	活動						
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度
	実績値・達成状況	1	達成	1	達成	1	達成			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	02目	005細目	03細々目	クリーン推進員事業					
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度				
予算額(A)	17,308	14,945		16,449		14,799		16,449				
決算額(B)=(C)+(D)	16,146	14,215		15,680								
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0				
	一般財源(D)	16,146	14,215		15,680		14,799		16,449			
概算人件費(E)	4,680	2,607		4,898		2,923		2,923				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.60	0.00	0.33	0.00	0.62	0.00	0.37	0.00	0.37	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	20,826		16,822		20,578		17,722		19,372			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性		
54 /60	ごみ対策に対する市民のニーズは年々高くなっており、必要不可欠な事業である。クリーン推進員の報告書には、外国籍市民に関するもの、町会・自治会非会員に関するものなど、他課にまたがる要望等が多くみられ、対応の難易度が高くなってきている。今後は関係各課と連携を図りながら効率的で効果的な対応を行なう。	2年度	現状維持で実施	
		3年度	現状維持で実施	
		4年度	現状維持で実施	

事業コード	43100101	事業名	クリーン推進員事業
部会名	第一部会	担当課	資源循環課

I 定量評価（評価の各観点について、一定の基準に基づいた数値による評価）

	評価の観点					選択肢	
	①趣旨・目的及び達成手段	②事業の効果	③事業の効率化	④課題解決への取り組み	⑤今後の事業の方向性		
A委員	2	2	2	2	2	4 適正	適正な事業運営がなされている
B委員	4	2	3	2	3	3 概ね適正	工夫や改善の余地があるが、概ね適正な事業運営がなされている
C委員	3	3	2	2	3	2 改善の必要あり	概ねこのままの事業運営で差し支えないが、工夫や改善が必要である
D委員	3	3	3	3	2	1 抜本的見直し	抜本的に事業の運営を見直したほうがよい
E委員	3	3	3	3	3		
部会全体	3	2	2	2	2		

II 定性評価（評価の各観点について、意見やアドバイス等のコメントによる評価）

No.	評価の観点	評価コメント
1	①趣旨・目的及び達成手段	趣旨は理解できるが、町会からクリーン推進員を選出するという制度であるため、必ずしも適任者が選出されているわけではない。そのため、取り組み意欲についても、ばらつきが出てしまう。
2	①趣旨・目的及び達成手段	趣旨・目的を考えた場合、必要な事業である。クリーン推進員がいなければ、無秩序になってしまう。
3	①趣旨・目的及び達成手段	事業内容は良いため、このまま事業を進めてほしい。
4	①趣旨・目的及び達成手段	ゴミの排出方法に関する知識を持つ人が、クリーン推進員として身近にいることは良いことだと思う。クリーン推進員を知らない市民も多いため、より多くの人に知ってもらえるようPRに力を入れてほしい。
5	②事業の効果	地域や場所によって必要な役割が異なり、また、報告率も低いため、具体的な活動の把握が必要である。
6	②事業の効果	成果が形になりにくいいため、事業の効果を測ることは難しいと思うが、活動報告書を有効活用し、何がどう変わったのかを具体的に報告できればよいと思う。
7	②事業の効果	クリーン推進員の活動がすべてうまくいけば、川口市は全国でもトップクラスのクリーンな市になると思う。
8	③事業の効率化	各地域の課題及び問題点を把握したうえで、メリハリのあるチームをつくるなどの方法で、適切な対処を行い、具体的な効果を上げる必要がある。
9	③事業の効率化	各町会での温度差がかなりあると思う。活動があまりなされていない町会に対しては、活動意欲を向上する対策を市で講じるべきである。

No.	評価の観点	評価コメント
10	④課題解決への取り組み	町会へ一任という制度に若干疑問を持ったが、具体的な代替案を考えた際、致し方ないと感じた。現状の制度で実施する場合、マニュアルを作成する等の具体的な体制づくりが必要である。また、現実的に難しいと思うが、若い世代を取り込む等、全世帯を取り込む体制づくりができればよいと思う。
11	④課題解決への取り組み	外国人住民の対応等はクリーン推進員のみでは難しいと思うため、クリーン推進員と市が一丸となって対応してほしい。
12	④課題解決への取り組み	各地域のクリーン推進員による活動報告会等を行えば、推進員の意欲向上につながるのではないかと。
13	⑤今後の事業の方向性	地域によっては、クリーン推進員が不要な地域もあるため、全地域に対して同じ仕組みで実施する必要はないのではないかと。市全域での対応ではなく、必要な地域に必要な人員を配置する仕組みをつくる必要がある。
14	⑤今後の事業の方向性	秩序を保つためには必要な事業であると思う。しかし、多くの市民がクリーン推進員を知らないため、この制度を周知する必要があると感じた。
15	⑤今後の事業の方向性	市の環境美化を促進するには必要な事業であるため、今後も継続して実施すべきである。
16	⑤今後の事業の方向性	ゴミの排出に関して、常習的に規則違反をする住民がいても、ゴミを回収していた場合、その意識は他の住民にも拡散されていくため、何らかの処置や対策を講じる必要がある。
17	⑥事業全体を通じた総合的な評価	クリーン推進員の評価が主観的であると感じた。具体的な根拠による、裏付けのある評価をすべきである。
18	⑥事業全体を通じた総合的な評価	必要な事業だと思うので、効果をあげて、継続してほしい。
19	⑥事業全体を通じた総合的な評価	ゴミを出すだけで、その後の処理等に関しては関心がなかったが、クリーン推進員の活動を知り、今一度自分のゴミの出し方等を見直す良い機会になった。

【評価結果まとめ】

①趣旨・目的及び達成手段	
3 概ね適正	クリーン推進員がいなければ、ゴミの排出に関して、無秩序な状態になることが懸念される。また、ゴミの排出方法に関する専門的な知識を持つ人が身近にいることは良いとの評価があった。一方で、クリーン推進員を知らない人が多いため、PRに力を入れるべきである。また、町会からの選出のため、適任者がクリーン推進員になっていないとの懸念があるとの評価があった。そのため、各町会での取り組みにばらつきがあり、目標が十分に達成されていない。全体としては、この趣旨・目的を活かして取り組んでほしいとの意見であった。
②事業の効果	
2 改善の必要あり	「3 概ね適正」との意見も多数あったが、「2 改善の必要あり」としている。何がどう変わったか、クリーン推進員がいることで、どのような効果があったかを具体的に示す必要がある。
③事業の効率化	
2 改善の必要あり	各町会、地域によって、かなり温度差があるため、全体の底上げが必要である。各町会、地域ごとに、同じ課題ではなく、異なる課題があるのではないか。報告書の提出率の低さについての指摘もあった。
④課題解決への取り組み	
2 改善の必要あり	クリーン推進員の選出方法については、町会からの選出という仕組みはどうかという疑問もあったが、致し方ないとの声もあった。現状の仕組みのままで実施する場合、マニュアルを作成し、各推進員が活動しやすい体制をつくる必要がある。また、若い世代の加入も検討してもよいのではないか。その他、各町会、地域の問題点が異なるため、その旨を把握した上で、対処することが必要である。
⑤今後の事業の方向性	
2 改善の必要あり	「3 概ね適正」との意見も多数あったが、「2 改善の必要あり」としている。市民へあまり周知されていない点や悪質な住民への対応策が必要である点等の指摘があった。また、市内全体という枠組みを外し、必要なところに必要な人員を配置するという仕組みが必要である。
⑥事業全体を通した総合的な評価	
	事業担当課におけるクリーン推進員の評価について、客観的な根拠が乏しいことから、今後は、可能な限り、裏付けのある評価を実施すべきである。